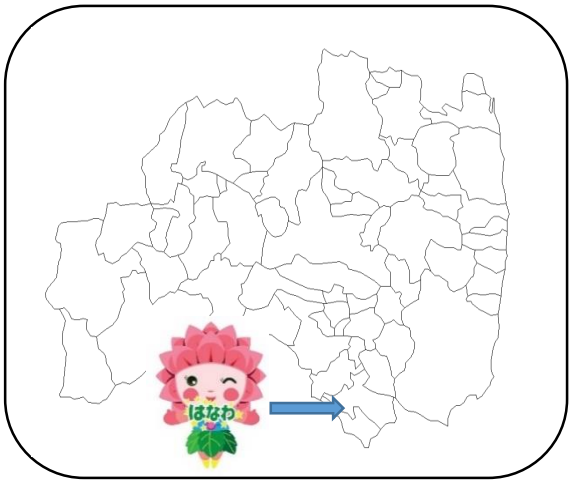
２　市町村の取組事例

（２）認知症施策の推進

塙町	認知症への理解を深め安心して暮らせるまちに

塙町の概要
　福島県の南東部、阿武隈山系と八溝山系に囲まれた田園と山林のまち。鮎の生息数日本一を誇る久慈川が町の中央を南北に流れ、その支流である渡瀬川、川上川の渓流とともに、町の豊かな自然の象徴となっている。市街地は、久慈川左岸を中心に開け、交流拠点として、町立図書館やコミュニティプラザを併設した磐城塙駅や、ＪＡ福島厚生連が運営する塙厚生病院をはじめ、道の駅はなわなどがあり、国道118号線とＪＲ水郡線で郡山市、水戸市と結ばれている。

【基本情報（令和5年1月1日時点）】
●人口
　8,195人
●65歳以上高齢者人口
　3,199人
●高齢化率
　39.0%
●要介護認定率
　21.6%
●第1号保険料月額
　5,600円（基準額）



取組の内容①

●背景
　本町の高齢化率は年々上昇しており、今後も少子高齢化などにより高齢化率は上昇すると思われる。それに伴い、認知症高齢者も増加することが見込まれるため、町民に認知症を正しく理解していただくことが必要である。

●事業内容
（１）認知症サポーター養成講座
　平成20年度から実施し、令和4年度（予定含む）時点で合計30回開催している。
　対象は、中高生、薬局、老人クラブ、民生委員、高齢者見守り隊など多岐にわたり、受講者は1,000人を超えた。講師を務める認知症サポーターキャラバンメイトは、紙芝居や寸劇などを交え、創意工夫をしながら養成講座を開催している。

（２）認知症サポーターキャラバンメイト連絡協議会
　令和4年度に認知症サポーターキャラバンメイトが3人増え、連絡協議会を初めて開催した。キャラバンメイト同士の情報交換や今後の活動について意見を交わす貴重な場となった。

取組の内容②

（３）認知症カフェ

平成30年度から地域のサロン（通いの場）で実施し、令和4年度（予定含む）は4回開催。新型コロナウイルス感染予防のため、飲食は禁止し、参加者間で距離をとりながらの開催となった。

（４）認知症地域支援推進員の増員

これまで1人だった認知症地域支援推進員を1人増員し、2人体制となった。今後も2人の認知症地域支援推進員を中心に、認知症の方の相談や各種事業の取り組みを進めていく。

（５）認知症ケアパスの改訂

平成30年3月に作成した「認知症ケアパス」を令和4年12月に改訂した。改訂は、認知症地域支援推進員が中心に行い、本人らの声やヘルプカードを掲載するなどの工夫をした。町内の関係機関はもちろんのこと、商店や金融機関、医療機関にも配置を依頼するとともに、ホームページへの掲載や回覧での周知を図り、認知症に対する理解を深める。

成果と課題

取組の成果

●新型コロナウイルス感染症の影響により、地域での活動やサロン（通いの場）での活動に制限もあったものの、認知症サポーター養成講座や認知症カフェを開催することができた。
●上記の活動や認知症ケアパスの改訂及び配布などにより、徐々にではあるが認知症に対する町民の理解は深まってきていると思われる。

今後の展望

●これまで認知症カフェを主にサロン（通いの場）で開催していたが、高齢者本人だけでなく、その方を支えているご家族や親族、地域の方が気軽に集まれるような場所を作っていきたい（認知症カフェの開催場所の固定化など）。
●令和7年度までの立ち上げが要請されている「チームオレンジ」について、計画的に進める必要があるが、スケジュールやステップアップ講座の内容など課題は多い。
●チームオレンジの立ち上げが完了した後は、地域全体で、認知症の初期段階からその本人や家族などを心理面・生活面で支援できるような体制を作っていきたい。また、町民すべての方が、認知症の方や高齢者などを支え、支えられるような元気なまちを目指したい。

様式１（市町村用）

南会津町	住み慣れた地域で安心して暮らしていくために

南会津町の概要

南会津町は、平成１８年に４つの町村が合併して誕生しました。地形は急峻な山に囲まれた山岳地帯で、面積の９１％を森林が占めています。また、冬は、厳しい寒さと積雪がある豪雪地帯です。

包括ケアシステム構築については、医療・介護連携や日常生活支援体制の整備、高齢者の住まいの安定的な確保等に向け、関係者との協働を図ることにより、地域の実情に応じた特色ある施策を推進していく方針です。

【基本情報】R5年1月1日現在

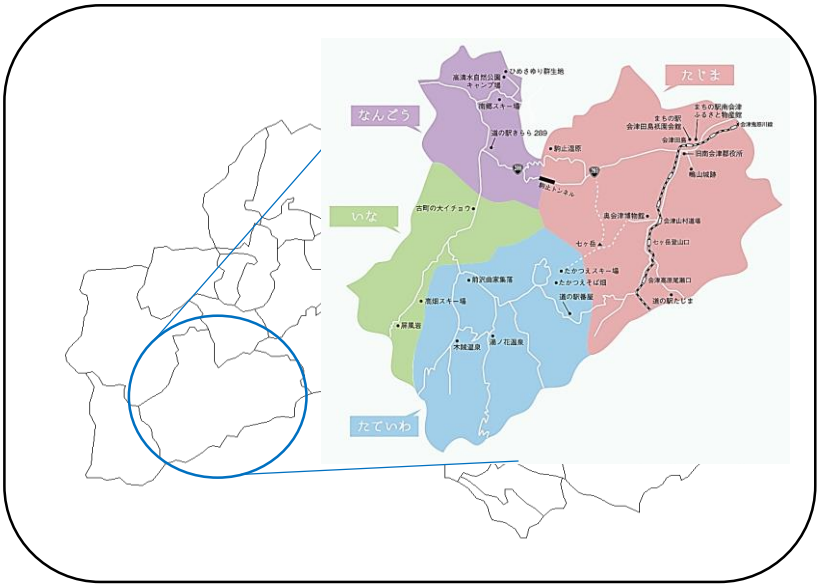
●人口
・14,176人

●65歳以上高齢者人口
・6,089人

●高齢化率
・43%

●要介護認定率
・20%

●第1号保険料月額
・6,000円（基準額）



生活支援体制整備事業
第２層生活支援コーディネーター活動

●背景

地域のニーズ調査や独居高齢者の意見から、足が不自由な高齢者の買い物等への移動手段について、ひとつの地域課題が明らかになったことから、生活支援方法を検討。

●実施主体

第２層生活支援コーディネーター

●活動内容

・区長、民生委員、独居高齢者宅等への訪問によるニーズ調査を実施した結果、複数箇所で買い物をしたいが移動手段がないことや、足がやや不自由な高齢者は、特に公共交通の利用が難しいことが分かった。
・生活支援体制整備にむけた試行として、移動手段のない地区の独居者と一緒に、コーディネーターの運転する車で買い物をする取り組みを実施し、課題や事業化に向けた検討を行った。

成果と課題

取組の成果

●地域住民と直接話をするなかで、地域の具体的な課題が明 らかになった。

●ひとつの課題を解決するための支援方法について試行することで、事業化する際の課題が明らかになった。

今後の展望

●地域の課題の明確化、その解決に向け試行することで、事業化するための具体的な課題が明らかになり、資源の開発に繋がると思われる。

小学生向け
認知症サポーター養成講座

●背景
高齢化がますます進み、地域の中にも認知症の方が多くなっている。認知症に関する理解を深めてもらう事業の一つとして、小学生に対しても高齢者や認知症の方について正しく学び、相手を思いやる心を育むことを目的として実施している。

●実施主体
認知症キャラバン・メイト
（地域包括支援センター、介護サービス事業所、社会福祉協議会の職員、町保健師）

●活動内容
・南郷小学校６年生（１２人）、伊南小学校５、６年生（１２人）を対象。
・それぞれの小学校と連携し、２時限を活用して、「高齢者疑似体験」と「認知症サポーター養成事業」を実施。
・終了時「オレンジリング」を配布。

●取り組みのポイント
・高齢者の疑似体験から、高齢者が抱えている生活での不便なところを理解してもらう。
・絵本や寸劇も取り入れ、認知症についてわかりやすく伝える。

成果と課題

取組の成果

●受講した児童からのアンケートや手紙から、高齢者や認知症の方へ接する時の留意点や、優しく声をかける等が学べたとの意見が数多くあった。

今後の展望

●町学校長会での説明や各小学校への通知等で取り組む学校の拡大を目指す。